

快感。
妖怪。

Press Release
特別展

挑む
浮世絵

すべて部分、名古屋市博物館蔵

大宅太夫

うたがわくによし

歌川国芳の武者絵を中心としながら、

つきおかよしとし

弟子たちの作品にもスポットをあてて紹介。幕末から明治に
かけ、国芳の個性が弟子たちにどのように継承されていったのかを
名古屋市博物館が所蔵する浮世絵 150 点によってたどる。

歌川国芳（1797-1861）は、旺盛な好奇心と柔軟な発想、豊かな表現力を武器として、武者絵や戯画に
新機軸を打ち出し、幕末にいたって浮世絵のさらなる活性化につなげた浮世絵師です。今日では「奇想
の絵師」としてその人気は定着してきています。

親分肌の国芳を慕って多くの弟子が集いましたが、なかでも「最後の浮世絵師」と称される月岡芳年
（1839-92）が特筆されます。国芳の奇想をよく受け継ぎ、さらに和洋の融合を推し進めた彼の作品は、
近年再び高く評されるようになってきました。

本展では、国芳、芳年のほか、芳年とともに国芳門下の双壁とされた落合芳幾（1833-1904）などにも
スポットを当て、国芳が切り開いたさまざまな新生面を弟子たちがいかに継承、変化させていったのか
をたどってみる機会とします。人々の嗜好に合わせ最後まで新しい画題と表現に挑み続けた、国芳を領
袖とする「芳ファミリー」の活躍をご覧ください。展示作品には残虐な絵も含まれます。ご用心！

なお本展は、名古屋市博物館が所蔵する浮世絵の二大コレクションー国文学者尾崎久弥（1890-1972）
の幕末浮世絵を中心とする収集作品（尾崎久弥コレクション）と、医学者高木繁（1881-1946）の国芳武
者絵が大半を占める収集作品（高木繁コレクション）ーの計 2100 タイトルほかより抜粋した名古屋市博
物館の所蔵品から構成されるものです。

※展示替えはありません。

幕末明治の浮世絵に絵師の挑戦をみる。

歌川国芳とその弟子らが、時代の要請にあわせてどのように画題や作風を変化させていったのか。新しいメディアが台頭す
るなか、国芳らは新たな潮流を生み出すことで浮世絵界を活性化させました。時代をつかむための挑戦ともいえる、その足跡
をたどります。

血みどろ絵の傑作「英名二十八衆句」を一挙公開。

残虐な物語の一場面を描いた「血みどろ絵」は、講談や落語、見世物といった他の文芸を母胎として幕末に流行しました。
その代表である「英名二十八衆句」シリーズ全 29 図（うち目録 1 図）を展示替えなしで一挙公開。国芳の弟子である芳幾と芳
年の巧みな画面構成力と当時の精緻な摺と彫の技術があいまって、劇的な場面が表現されています。凄惨さだけではなく、それ
らがいかに生み出されているのか、彼らの工夫に着目します。（会場では「血みどろ絵」の観覧を希望されない方のために短絡路を設けます。）



※名古屋会場は写真撮影 OK！

フラッシュ・三脚・自撮り棒禁止、他のお客様の
肖像権に配慮する等の条件があります。

詳細は会場または公式サイトにて。

展示会の構成

※画像は全て名古屋市博物館蔵品。変更の可能性があります。

第1章 ヒーローに挑む		2 p
第2章 怪奇に挑む		3 p
第3章 人物に挑む		4 p
第4章 話題に挑む		5 p
終章「芳」ファミリー		6 p



第1章 ヒーローに挑む

歌川国芳の出世作であり、その後も得意としたのが歴史上や物語に登場するヒーローの勇ましい姿を描いた「武者絵」です。そのDNAは弟子たちに確実に引き継がれていきました。国芳や弟子が逸話やヒーローたちをどのように表現したのかをみていきます。



↑歌川国芳「通俗水滸伝豪傑百八人之一人
花和尚魯知深初名魯達」
名古屋市博物館蔵（高木繁コレクション）
国芳の出世作。画面いっぱいにパワーがみな
ぎる。

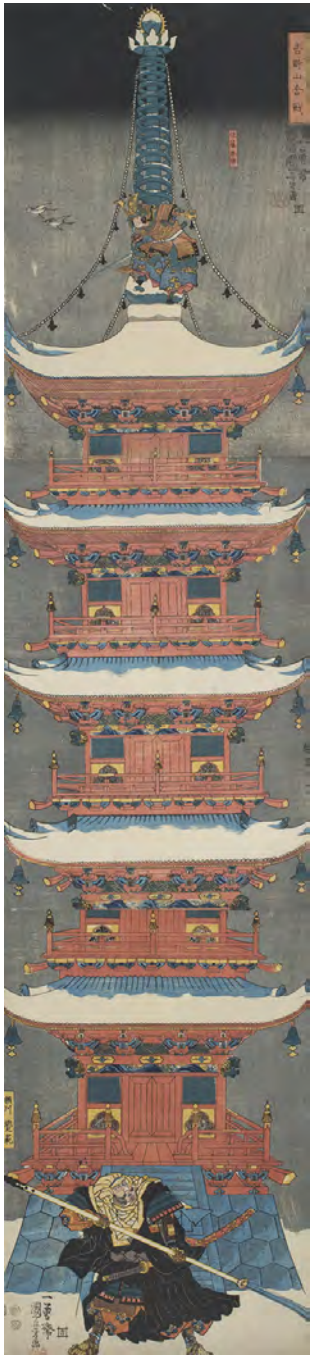


国芳の武者絵は、なによりもみなぎ
る緊張感、そして画面からあふれん
ばかりの迫力が魅力です。その迫力
は独自の巧みな画面構成によって生
み出されています。



↑歌川芳宗「身延山合戦図」名古屋市博物館蔵（尾崎久弥コレクション）
迫力にあふれた画面づくり、造形は弟子たちに引き継がれた。

→歌川国芳
「吉野山合戦」
名古屋市博物館蔵
（高木繁コレクション）
縦長の画面を活かして
吉野山金峰山寺五重塔
での横川覚範と佐藤忠
信のにらみ合いを描く。
大判を縦につなぐとい
う斬新なアイデア。



第2章 怪奇に挑む

ヒーローの勇ましさを強調するためには、彼らが対峙する怪奇をいかに恐ろしく表すかということが重要です。また状況が異常であればあるほど画中のドラマ性は高まります。国芳は血がほとばしる残虐な場面を描いた作品を描いていますが、時代の要請だったのでしょうか、弟子もまたその路線を受け継ぎました。本章ではそうした怪奇を描いた作品や「血みどろ絵」と呼ばれる作品を紹介します。

特に落合芳幾と月岡芳年が手がけた「英名二十八衆句」は全点を一挙公開します。

体調を整えた上でご覧いただくことをおすすめします。



↑歌川国芳「相馬の古内裏」名古屋市博物館蔵（高木繁コレクション）

原作では無数の骸骨が登場する場面。国芳は巨大な骸骨を写実的に描き怪奇性を演出。

→歌川国芳「誠忠義臣名々鏡 堀部矢兵衛金丸」

名古屋市博物館蔵（尾崎久弥コレクション）

四十七士の勇姿を描く。堀部矢兵衛の刎ねた首が飛ぶ。



みたさ。



怖いもの

落合芳幾・月岡芳年「英名二十八衆句」全点一挙公開。

芳幾「英名二十八衆句 げいしや美代吉」、芳年「英名二十八衆句 福岡貢」いずれも名古屋市博物館蔵（尾崎久弥コレクション）

第3章 人物に挑む

国芳が描く美人像は、現実味にあふれ、はつらつとした明るさを放っています。一方で芳年の描く美人は妖艶な雰囲気なたたえています。そうした女性たちは、国芳一門では、「しぐさ」や「気持ち」をまとして表現されます。ここでは、美人画を中心に役者絵も含めたそれぞれの人物表現をみていきます。



↑歌川国芳「山海愛度図会 五十七
はやく酔いをさましたい 豊前小倉稿」
名古屋市博物館蔵（尾崎久弥コレクション）



↑月岡芳年「風俗参十二相 かゆさう」
名古屋市博物館蔵（尾崎久弥コレクション）

コレクション紹介「好き」をつらぬく

あなたの「好き」は何ですか？本展の核となるコレクションを形成した高木繁氏と尾崎久弥氏は、いずれも大正から収集をはじめ、まだ評価が低かった国芳らの魅力を普及するよう力を尽くしています。他の評価に左右されることなく自分の「好き」をつらぬいた両氏の収集熱をご紹介します。



高木繁（たかぎしげる）
明治14年～昭和21年（1881-1946）
東京出身。京都帝国大学福岡医科大学（現在の九州大学医学部）
泌尿器科初代教授。大正10年（1921）頃から浮世絵を収集。
とりわけ国芳の武者絵と戯画を愛す。平成12年（2000）、コレ
クション231件534点が名古屋市博物館へ寄贈された。

国芳といふ傑物を
出したのは我国の浮世絵が、
決勝線間際に於ける
ラストヘビー（最後のがんばり）
に外ならぬのだ。

高木繁「国芳と武者絵」『九大医報』昭和9年



尾崎久弥（おざききゅうや）
明治23年～昭和47年（1890-1972）
名古屋出身。旧制中学校の国語教師。青年期より、楓水の号で短歌、
小説の創作を行う。大正3年（1914）頃から収集。溪斎英泉ら
の美人画と江戸文学を愛す。昭和60年（1985）、コレクション
1,937件2,836点が名古屋市博物館へ移管された。

第4章 話題に挑む

国芳の戯画（滑稽な絵）はバリエーションの豊富さと、そしてアイデアの奇抜さにおいて他の追随を許しません。第1章の武者絵と並んで彼が浮世絵界に残した新機軸とっていいでしょう。

さらに一見、ユーモラスに見える国芳の戯画のなかには、幕政を風刺しているとしてさまざまな憶測が飛び交い大評判をとったものもあります。ここでは当時、話題となった見世物に取材したものや、世相をネタにした戯画など、ニュースソースとしての作品を紹介します。国芳が時代をどう捉え、いかに商品としたのか、その挑戦を見ていただきます。



←歌川国芳「流行猫の戯 身の臭姫色時」（部分）
名古屋市博物館蔵（高木繁コレクション）
芝居の場面を演じる猫の顔は役者の似顔絵。



→歌川国芳「深見草獅子彩色」
名古屋市博物館蔵（高木繁コレクション）
獅子が集まって牡丹を形作る。
世界に2枚が確認されるうちの1枚。稀品。

面白いには
裏がある。



↑歌川国芳「里すゞめねぐらの仮宿」名古屋市博物館蔵（高木繁コレクション）
遊郭吉原の臨時営業を擬人化した雀で描く。花魁も彼女たちを物色する男も、見物の女客も親子もみんな雀。顔は雀ながらも表情が豊かで、にぎやかな様子が伝わる。
江戸時代、吉原に足しげく通う人やひやかし客を「吉原雀」と呼びならわした。

→歌川国芳
「浮世又兵名画奇特」
名古屋市博物館蔵（高木繁コレクション）
大津絵から飛び出したキャラクターたち。役者の似顔絵になっているが、実は十三代將軍家定を風刺したものと評判になった。





歌川国芳「大物之浦海底之図」名古屋市博物館蔵（高木繁コレクション）

“芳”の遺伝子



新機軸を次々と産みだし、晩年にいたってもなお浮世絵界を活性化させた国芳は親分肌だったと言われ、芳年の他にも画号に「芳」のつくたくさんの弟子がいました。「新聞錦絵」で印象深い芳幾、パノラマ歴史画で秀作を残す芳艶^{よしかず}のほか、芳虎、芳盛、芳員、芳藤などが出て明治の浮世絵を彩ります。ここ終章では、弟子による明治浮世絵の展開に目を向け、浮世絵最後の光芒を確認してみます。

月岡芳年「東名所墨田川梅若之古事」名古屋市博物館蔵（尾崎久弥コレクション）



基本情報

■展覧会名 特別展 挑む浮世絵 国芳から芳年へ

Ukiyoe that Challenges: Kuniyoshi, Yoshitoshi...and More!

■会期 2019年2月23日(土)～4月7日(日)

■開館時間 9時30分～17時(入場は16時30分まで)

■休館日 毎週月曜日、第4火曜日(2/26、3/26)

2月25日(月)、26日(火)、3月4日(月)、11日(月)、18日(月)、25日(月)、26日(火)、4月1日(月)

■当日料金 一般1,300(1,100)円、高大生900(700)円、小中生500(300)円

※()内は前売および20名以上の団体料金。

※前売券は12月1日(土)から2月22日(金)まで、名古屋市博物館、中日新聞販売店、主要プレイガイド、チケットぴあ(Pコード=769-401)、ローソンチケット(Lコード=43699)、セブンチケット、イープラスなどで販売。

※名古屋市交通局の一日乗車券・ドニチエコきっぷを利用して来館された方は当日料金より100円割引。

※身体等に障害のある方または難病患者の方は、手帳または受給者証のご提示により、本人と介護者2名まで当日料金の半額。

※各種割引は重複してご利用いただくことはできません。ご了承ください。

■会場 名古屋市博物館 NAGOYA CITY MUSEUM

〒467-0806 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

TEL. 052-853-2655 FAX. 052-853-3636

<http://www.museum.city.nagoya.jp/>

名古屋駅から地下鉄桜通線で直通17分

桜山駅下車4番出口徒歩5分／おでかけは公共交通機関で。

■主催 名古屋市博物館 中日新聞 東海テレビ

■協賛 野崎印刷紙業

■公式サイト <http://www.chunichi.co.jp/event/yoshiyoshi/>



特別展「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」は名古屋開催ののち、全国を巡回します。

〈第2会場〉広島県立美術館 2019年4月13日(土)～5月26日(日) 予定

〈第3会場〉福岡市博物館 2019年11月16日(土)～12月22日(日) 予定

ほか2020年以降も全国を巡回予定。

特別前売チケット

春分の日まで
待てない!

**期間限定
チケット**

(限定販売1,000枚)

開幕から3月20日(水)までご観覧いただけるお得な前売券です。

【価格】1,000円(税込)

【販売期間】2018年11月1日(木)～2019年2月22日(金)

【販売場所】中日新聞販売店、チケットぴあ(Pコード=769-400)、ローソンチケット(Lコード=43699)、セブンチケット、イープラス

※券種は一般のみ。限定枚数に達し次第、販売終了。

※本券は2019年2月23日(土)～3月20日(水)の開館日のみ有効です。

3月21日(木・祝)以降に来館された場合は、前売券料金(1,100円)との差額100円を会場チケット販売窓口でお支払いいただくことによりご入場いただけます。

**グッズセット
チケット**

一般観覧券とオリジナルグッズがセットになったお得な前売券です。

【価格】1,700円(税込)

【販売期間】2018年11月1日(木)～2019年2月22日(金)

【販売場所】ローソンチケット(Lコード=43699)

※券種は一般のみ。商品がなくなり次第、販売終了。

※グッズは会期中に会場内売店で引き換えます。写真はイメージです。実際とは異なる場合があります。



国芳の花魁
キューピーが

○講演会「国芳と芳年の快感」

講師：名古屋市博物館副館長 神谷 浩
 日にち：2019年2月24日（日）
 開演：13時30分（開場は13時00分）
 会場：地下1階講堂（定員220名）
 ※参加費無料（ただし本展観覧券が必要。観覧済半券も可）
 ※当日9時30分より整理券を展覧会場入口で先着順に配布します
 （1観覧券につき1枚のみ）。

○展示説明会

講師：名古屋市博物館学芸員 津田卓子
 日にち：①2019年3月8日（金）
 ②2019年3月16日（土）
 開演：13時30分（開場は13時00分）
 会場：1階展示説明室
 ※参加費無料、事前申込不要（当日先着100名）。



○^{はくぶつかんやがく}博物館夜学 ^{かい}怪の集い

夜の博物館で浮世絵を鑑賞しませんか？「血みどろ絵」を中心に本展の見どころを学芸員が徹底解説します。夜ならではの楽しみ方も。※解説作品には残虐な描写のものが含まれます。

講師：名古屋市博物館学芸員 津田卓子
 日にち：①2019年3月3日（日） 17時00分～19時00分（受付開始は16時30分）
 ②2019年3月21日（木・祝） 17時00分～19時00分（受付開始は16時30分）
 会場：1階展示説明室および展覧会場
 ※夜学チケット2,000円（特典グッズ付観覧券）をローソンチケット（Lコード43699）にて事前にご購入下さい。
 2018年11月1日（木）より各日先着100枚限定販売。

○^{はくぶつかんよせ}博物館寄席

出演：講談師 旭堂鱗林・落語家 雷門幸福
 日にち：2019年3月2日（土）
 開演：13時30分（開場は13時00分）
 会場：地下1階講堂（定員220名）
 ※参加費無料（ただし本展観覧券が必要。観覧済半券も可）
 ※当日9時30分より整理券を展覧会場入口で先着順に配布します（1観覧券につき1枚のみ）。



きょくどう りんりん
講談師 旭堂鱗林



かみなりもんこうふく
落語家 雷門幸福

※講演会などで手話通訳・要約筆記などによるサポートをご希望の方は、当日の2週間前までにご相談ください。

広報用 作品画像・読者プレゼントチケット 申請書

名古屋市博物館特別展 挑む浮世絵 国芳から芳年へ
2019年2月23日(土)～4月7日(日)

- ・広報用画像の使用は、特別展「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」を紹介する場合に限ります。
- ・展覧会終了後の広報用画像の使用、または二次利用はお断りします。
- ・広報用画像を紹介する場合は、展覧会名・会期・会場・作品名・クレジットを必ず記載してください。
- ・広報用画像はトリミングしていただいてもかまいません。
- ・掲載記事につきましては、基本情報確認のため、校正刷り、原稿の段階で下記のお問合せ先までお送りください。

貴社名

媒体名

〒

ご住所

ご担当者名

所属部署

TEL

FAX

E-mail

ご掲載・放映の予定日が決まっている場合はお知らせください。 年 月 日

【個人情報の取扱いについて】

ご記入いただきました個人情報は、名古屋市博物館より本展覧会に関する情報発信や連絡などが必要な場合にのみ使用します。
許可なく第三者に開示することはありません。

作品画像を1点以上掲載し、本展をご紹介いただける場合、
読者向けチケット(5組10名分まで)を提供します。

☐希望する 組 名分
☐希望しない

※原則として掲載紙・誌(webの場合は掲載アドレス通知のメール)が広報担当に到着し、確認させていただいてから発送いたします。

希望される画像の□に✓してください。

※資料名など写真のキャプションは記載のとおりに表示してください(改行は適宜行って構いません)

1 □



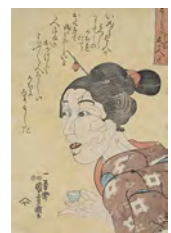
歌川国芳「相馬の古内裏」名古屋市博物館蔵(高木繁コレクション)

2 □



月岡芳年「東名所墨田川梅若之古事」名古屋市博物館蔵(尾崎久弥コレクション)

3 □



歌川国芳「としよりのよふな若い人だ」
名古屋市博物館蔵(尾崎久弥コレクション)

4 □



落合芳幾「英名二十八衆句 けいしや美代吉」
名古屋市博物館蔵(尾崎久弥コレクション)

5 □



月岡芳年「英名二十八衆句 福岡貢」
名古屋市博物館蔵(尾崎久弥コレクション)

6 □



歌川国芳「浮世よしづくし」より国芳自画像
名古屋市博物館蔵(高木繁コレクション)

7 □



(展覧会イメージ)
※キャプションは不要です

お問い合わせ先

名古屋市博物館 学芸課 特別展「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」広報担当：川合・竹内(智)
名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1 Tel. 052-853-2655 / Fax. 052-853-8400
E-mail: ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp